

第9回さくらピア避難所体験

平成 29 年 9 月 30 日(土)

実施報告書



①避難・報告訓練 … 1 2 6 名

②講演&避難所開設

レイアウト実習 … 1 1 9 名

③防活ミーティング … 4 1 名

計 2 8 6 名

◆スケジュール◆

30日[土]

①避難・報告訓練 【@さくらピア～桜ヶ丘公園～あいトピア 3階多目的ホール】

- 09:30 さくらピアで受付開始【1階ロビー】
- 10:00 開会
- 10:15 さくらピア出発（あいトピアへ）
- 10:30 あいトピア到着【3階多目的ホール】
 - ニーズ受付とボランティア事前オリエンテーション
 - 障害者→ニーズ受付（支援して欲しい内容を告げる）
 - ー 一般→ボランティア受付
- 11:45 アンケート記入、非常食受取、順次終了、解散

②講演・避難所開設レイアウト実習 【@体育館・ロビー】

- 12:45 受付開始 3階大会議室
- 13:00 開会
 - 講演「避難所の課題～東日本、熊本支援の活動から」
（講師：AJU自立の家 所長 水谷真 氏）
- 14:00 移動
- 14:10 避難所開設レイアウト実習（区画分け体験・1階体育館）
- 14:45 避難訓練と初期消火訓練（桜ヶ丘公園）
- 15:00 アンケート記入、参加賞配布、終了、解散

③防活ミーティング・まとめ 【@3階大会議室】

- 15:50 受付、地域別グループごとに座る
- 16:00 開会
 - 地域の避難所、福祉避難所、協定施設、自身の備えなどについて思う事を話す
- 17:00 話合いの内容を発表
- 17:30 終了、解散

参加者内訳

障害等種別		①避難・ 報告訓練	②講演・ レイアウト実習	③防活 ミーティング	合 計
障害者・ 家族（当事者）	身 体	14	13	2	29
	重 身	0	0	0	0
	うち中学生以下	0	0	0	0
	内 部	0	0	0	0
	聴 覚	11	11	5	27
	うち中学生以下	3	3	0	6
	視 覚	2	0	2	4
	精 神	3	5	1	9
	うち中学生以下	0	0	0	0
	知 的	7	5	1	13
	うち中学生以下	0	0	0	0
	発 達	0	0	0	0
	家 族	11	14	6	31
	うち中学生以下	0	0	0	0
	小 計	48	48	17	113
	うち中学生以下	3	3	0	6
一 般	介 助	2	3	0	5
	ボ ラ	26	28	4	58
	大学生・高校生	3	3	3	9
	看護師	0	0	0	0
	議 員	0	1	0	1
	民 生	5	4	0	9
	社 協	1	1	1	3
	市職員	5	7	0	12
	その他	30	17	11	58
	うち中学生以下	5	5	0	10
	さくらピア	6	7	5	18
	小 計	78	71	24	173
	うち中学生以下	5	5	0	10
合 計		126	119	41	286
うち中学生以下		8	8	0	16

参加総数は286名（前年：414名）で、うち障害当事者は82名（前：126名）、障害者家族は31名（前：77名）、一般参加者は173名（前：211名）だった。初参加の方が半数を占めた。ここ数年は半数程度が初参加者であることを考えると、「さくらピアの避難所体験」の認知度が上がっていることを実感する。市外（豊川市・田原市・安城市・浜松市）の障害者施設や手話サークルなどからの参加もあり、今後、各地域で「障害者の防災活動」が実践されることを願っている。

地域の消防団にも声をかけたところ6名の団員の参加があった。民生委員さんもご多忙の中9名の参加をいただいた。

特筆すべきは、会館前の国道1号線で電線地中化工事をしている㈱ガイアート担当者よりボランティアの申し出をいただき、あいつピアへの移動訓練や、体育館から桜ヶ丘公園への避難訓練の道路横断時に交通誘導の協力をいただき、感謝している。

また、豊橋市市民協働推進課及び豊橋市社会福祉協議会の協力のもと、災害ボランティアコーディネーターレベルアップ講座としても開催され、災害をテーマに活動する市民グループと交流する機会が持てたのは大きな収穫となった。

内容別としては宿泊体験（昨年度参加者83名）を実施せず、①避難・報告訓練126名（前年は昼の講演：146名）、②講演・避難所開設レイアウト実習119名（前年は夜の講演及びあそ防災：132名）、③防活ミーティング41名（前年はまとめと講評：53名）となったので減少した印象は否めないが、一貫して自分が住んでいる地域で分けられたグループで行動することによって、障害のあるなし、年齢差などにこだわらずに協力して実践的な訓練ができたことは大きな前進である。ただ、昨年実施したあそ防災などの子ども向けの企画がなかったのは反省点である。

今後も、プレイベントとしての9月の防災タイム、避難所体験を恒例行事として定着させ、障害者も参加し易い企画、市民と交流できる企画を実施し、防災を通じて地域に障害者理解を広めていく出会いの場としていきたい。



【第1部】 伝えて～ 避難・報告訓練

豊橋市災害ボランティアコーディネーターレベルアップ講座とコラボの企画とした。

開会式の後、5つの地域別グループにさくらピアを出発し、あいトピア多目的ホールに到着。ニーズを伝える障害者は、研修室で災害VCの方に1:1でニーズ表に合わせて丁寧な聞きとりをしていただいた。聴覚障害者とのコミュニケーションには時間がかかったが絵カードや、筆談、身ぶり等工夫して対応していた。全体の進行や、個々の時間調整等の課題も多いが、はじめての体験で大いに参考になったという意見が多かった。



多目的ホールでは、災害ボランティア活動の進め方を模擬体験した。事前オリエンテーション後、各自ボランティア登録受付で自分が支援できる内容を伝え、活動を選択、活動先ごとに詳細説明を受け、実施・報告までを行った。支援する側を体験することで、実際の運営やボランティア活動の大変さを理解することにもつながったのではないかな。



【第2部】 地域で～ 講演&避難所開設レイアウト実習

AJU自立の家 水谷真氏 講演
「障害者と避難所 インクルーシブ防災をめざして」



2016年熊本大分地震では障害者の7割が避難を諦めたという報告が福祉フォーラムでだされていた。トイレなど生活環境の不安や移動手段がないことが理由だった。一度避難しても周囲の理解が得られず、避難所を出たケースも少なくない。

今までの福祉避難所に集める方法だけではなく、災害時にも「他の者との平等を基礎として」障害者も地域に避難できる環境が提供されるべきではという提案であった。

障害者権利条約、障害者差別解消法等の法整備により、少しずつ「合理的配慮」の言葉は社会でよく使われるようになってきたが、実施に至ってはまだまだこれからである。

防災の分野で障害者に対する市民理解を得るためには、今後さらに「災害弱者からの発信」が重要になってくる。と、さくらピアのような障害当事者の活動の大切さを説かれた。



体育館で避難所設営訓練。

事前に企画者側で体育館の見取り図を作成し、指定された1m×2m×10人分のスペースをガムテープで仕切る体験をした。1部と同じ地域別のグループ20人程で手分けして設営した。他にダンボールベッドの組み立て、館内にあるマットや座布団など利用可能な備品の紹介をした。他にロープの上にガムテープを貼り応急の視覚障害者誘導路の作り方を紹介した。



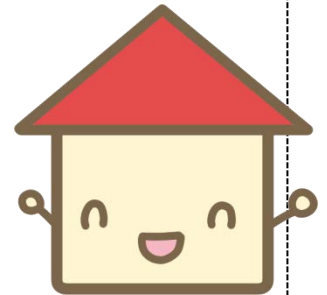
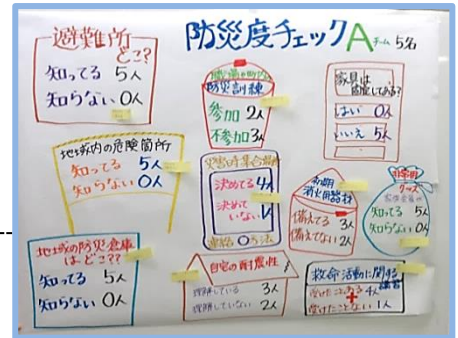
その後、避難訓練をして桜ヶ丘公園まで移動、消火器の使い方を学んだ。

【第3部】 つながって 防活ミーティング・まとめ

《あなたの防災度チェック》

◆次の質問に「はい」「いいえ」でお答えください。

1. 避難所がどこか知っていますか？
2. 職場や町内会等の防災訓練に参加していますか？
3. 地域内の危険箇所を知っていますか？
4. 地域の防災倉庫はどこにあるか知っていますか？
5. 災害時の家族の集合場所や連絡方法を決めていますか？
6. ご自宅の耐震性を理解していますか？
7. 家具は固定してありますか？
8. 非常用の飲料水・ラジオ等のある場所は、家族全員がわかっていますか？
9. 消火器・三角バケツ等の初期消火用器材を備えていますか？
10. 人工呼吸などの救命活動に関する講習を受けたことがありますか？



グループ発表

【Bグループ】

B／聴覚障害者の参加が 4 割いたので筆談でコミュニケーションしました。B紙も使ってチェック表項目を話し合いました。いつもメモ帳をもっている必要があるな、と思いました。三角バケツの話でもりあがりました。



司会／何ですか？

B／三角になっているので水を効率的にかけることが出来るバケツだそうです。



司会／来年までにさくらピアで見本を購入します。つつじヶ丘地域の危険な場所などの話は出ましたか？

B／人口密集地は交差点などがあぶないとか、川の氾濫が心配等の話も出ました。

【Aグループ】

A／きれいにまとめられました。避難所はみんな知っているようです。嵩山や石巻など山の災害が心配。防災倉庫は知っているけれど、誰が鍵を持っているのかわからない、という意見が出ました。掲示板を連絡に利用したい。耐震性はわかっているけれど、いろいろな事情でそのままという人もいました。救命講習は、大学や車の教習所でしました。



司会／さっき自己紹介のとき、スポーツ競技場のバリアフリーの声が聞こえてきたのでみなさんに紹介してください。

A／佐々木です。娘が車いすテニスをやっていますが、豊橋市は障害者スポーツの施設の整備がとても遅れています。東京オリンピックや次のオリンピックもめざして一生懸命やっていますのでみなさんご理解をお願いします。



司会／防災にスポーツ防災という取り組みもあります。さくらピアでは、今年も「防災タイム」を一日3回、2週間毎日実施しました。500人以上の参加者が通常の活動時間に避難経路の確認をしました。他の施設でも防災タイムをするといいと思います。

【Dグループ】

D／避難所は知っているけれど、地域の訓練は開催自体を知らない人が多かった。川の近くの危険、自然災害の危険についても心配していました。



地域の防災倉庫は場所を知っていても、カギのありかを知らない。何人かが知っていた方がいい。

家族の集合場所連絡場所は細かく決めてない。家ではなく日中の職場や学校で災害が起きた場合はどうするかを考える。

耐震性は専門家でないといけない。家具の固定、ロック、自分の家だとテレビは固定しているけどタンスの傍では寝ないということを考えなくてはいいかなと思った。飲料水ラジオなどまだ不十分、置いてはあるけど十分ではない。



司会／「備えはまだまだ」はよかった、名言ですね。
家族の話がでましたが、今日家族に「さくらピアに行く」と言って
来ましたか？



D／言っていないです。

司会／それなんです。東日本大震災後、仙台に視察に行った時、家族に行き先を言って出かけることの大切さを被災地の方に聞きました。安否確認がスムーズにできるように、今日さくらピアに行ってきたことも家族に報告してくださいね。

【Cグループ】

C／1～10まで話し合いました。

視覚障害の方は、夜、まわりに人がいなかったり、交通量の多い所は困る、家に一人にいるときは怖いな、という意見が出ました。避難訓練の日程などを知らない人も多いようです。

水害があったときに、ボート等があったら使えるんじゃないか。防災倉庫の場所はどこにあるか知らない人も多い。

災害時の家族の連絡方法は携帯を考えているが、災害伝言ダイヤルも利用してみたい。

耐震診断をした人もいる。冷蔵庫等は固定方法が分からない。背の高い家具は方法がわからない。棚の取っ手にS字フックで固定している人もいる。救命講習はだいぶ前で内容をあまり覚えていない。



司会／Cグループには、視覚障害の人が入っていてテニスと卓球、ネットの下をくぐらす視覚障害者卓球をしています。グループのまとめとして何か名言ありますか？



C／「災害は、災害は忘れたころにも来ない方がいいですね」

司会／ありがとうございました。卓球の球拾いボランティアなど募集中ですよ。よろしくおねがいします。

【Eグループ】

E／田原、豊橋、私は浜松の手話サークルから来ました。
聴覚障害者の方の通訳をサークルの人がやってくれました。



田原は海の近くで海拔0メートルのところもあり避難場所も危ない所も認識している。浜松の南区も海に近くて危ないことは認識している。

聴覚障害の人は地域の訓練開催の情報を知らないとのことでした。

防災倉庫に何が入っているかも知らない。

災害ダイヤルに登録したり、知的障害者の場合は、迎えに行くからその場所を動かないように家族と約束している。

寝る部屋には家具を置かないようにしている。

非常食の場所は知っているが妻任せで中身を知らない。自分も知らない。

ろうあ団体に救命講習をした。等の意見が出ました。

名言というか このグループでは…「避難場所が一番あぶない」と。



【会長まとめ】

山下／お疲れさまでした。長い時間ありがとうございました。

リーダーさんによって話し合いが変わっていくのだなと思いました。

今日のプログラムにチェックリストが入っていますので、「いいえ」のチェックが少なくなるように家でもまたやってみてください。

災害というと皆さん東日本の津波を思い浮かべると思いますが、阪神の時は火災や耐震性のことが問題になりました。豊橋の周りでは東海豪雨もありましたね。液状化現象について発表された地域で、牟呂の他に飯村地域が赤くなっていたのを記憶しています。佐藤町も昔池がありましたよね。自分が住んでいるところの昔の地図を調べたりすると備えも変わるのかなと思います。ネットで検索できると思います。

皆さんは、今日は防災意識が高まっていると思います。でもじきに忘れていってしまう。9月にはやっても時間がたつと忘れていってしまいます。

僕がやっている会社は、毎月防災訓練をしています。障害者が通う施設なので、「今回はAさんのための避難誘導」とか毎月テーマを決めて訓練しています。これから皆さんの会社でもいいし、サークルなどに入っている人は、サークルを開いている場所でさくらピアの防災タイムのようなものを提案するなどできるといいですね。

三角バケツはキャップがついています。キャップをとって水をまく、一度に水がなくならない、隅に置きやすいなどの利点があるので家庭に備えるのもいいかもしれません。

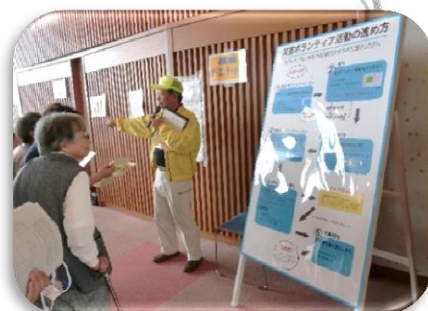
皆さんは、災害に強くなりつつあると思います。いろいろな名言も出ました。災害が来ないことを祈りますが、よく台風の時に見に行つて怪我する人のニュースも聞くので、そういうことをしないと心に決めるとか、できることから始めてください。



本田／今日はお疲れさまでした。次は 3.11 をわすれない集いでお会いしましょう。

① 避難・報告訓練 アンケートより

- ✧ 大変すばらしい取組なので継続を期待したい。多くの人に参加すると、障害の理解も深まり市の防災力の向上につながる。
- ✧ 昨年みたいに子ども向けの訓練ゲームがほしい。
- ✧ ニーズの受付、正直手際が悪かった。それこそ訓練の意味がある。(入ってきた人を整理しない、待ち時間の使い方)
- ✧ 受付、運営は混乱するということがよくわかった。たくさんのボランティアが心強い。
- ✧ ボランティアの説明が複雑と感じた。説明をわかりやすくすれば、多くの人に参加できる。
- ✧ 初めて出会った方と協力して動く大変さや情報を詳しく収集する大切さを学ぶことができた。
- ✧ 実際の状況ではボランティア活動が思うように進まないことがあったり、大変だと思う。
- ✧ 避難時に地理をよく知らなければいけないと思った。
- ✧ 自分の情報を話すのは初めてで緊張した。
- ✧ 田原からの参加。持ち帰り、わが町でもできればと思う。
- ✧ 実践的な訓練になってきた。実際の時に役立ててほしい。
- ✧ 障害者受付、聞き取りがもたついた。
- ✧ ニーズの聞き取りの場合、待つ人の順番や割り振りなどボラが必要。
- ✧ 災害ボランティアさんが障害を理解している感じでなかったので、学んでほしいと思った。



自分のことを話すの
緊張。



- ✧ グループで段ボールの取り合いがあった。譲り合わなければと思った。
- ✧ 段ボールベットを作る経験はよかった。レイアウト実習も実際に体験できてよかった。
- ✧ 本当に避難の必要があったら、何週間も何か月もここで過ごせないかもと不安になった。
- ✧ 自分にできることを考えて積極的に行動したり意見したりすることは大切だと思った。
- ✧ 体育館という広いスペースがあってもいざ生活空間にすると寝られる人数が限られ、収容人数も限りがあるとわかった。行政にお世話になろう、何とかしてもらおうと思わず、命をつなぐ意識をたかめていこう。
- ✧ レイアウトの配置についても障害のあるなし、子ども、女性など考えることがたくさんある。
- ✧ パニック障害等の対応もパーテーションは必要。
- ✧ 障害のある方とご一緒出来てよい体験になった。(民生委員)
- ✧ レイアウト実習は、いろいろな人がいるから難しい。指示したがる人は指示が間違っている。ヒステリックに叫ぶ人は手を動かさない。リーダーの必要性。災害時はもっと個人のエゴが出る。
- ✧ リュックの中にメジャーと養生テープを入れておこうと思った。
- ✧ いろいろな障害者や老若男女、ともに実習をやってよかった。車いすの介助を経験して、段差などコツを知った。
- ✧ レイアウトで、1人の領域は荷物や寝具でもっと狭くなると思った。段ボールベットは、快適だが数が限られるので優先順位が大変かな。



床にロープを置いて
テープを貼ると
点字ブロックの代わりになる



- ✧ 協力の必要性を感じた。一方で知らない人同士の協調が難しいと思った。
- ✧ レイアウト訓練時、聴覚障害者へは説明のプラカードがあるとよいと思った。モニターと手話だけでは伝えきれない耳の遠いお年寄りなどへ文字盤や垂れ幕が下がるような工夫が欲しい。

知らない人と協調は
難しい



③防活ミーティング・まとめ アンケートより

- ✧ 備えはまだまだ。改めて防災意識を持てた。地震・津波だけでなく、家・職場まわりの危険箇所なども注意が必要。
- ✧ 防災意識を高められるよい機会になった。
- ✧ 豊橋の防災の取組を学ぶために来た。進んでいるので、浜松でも生かしたい。
- ✧ 防災度チェックができたことで、認識度や現時点での対応ができていないところがわかりよかった。
- ✧ いつも意識していないことが多かった事に気づけた。楽しく過ごせた。
- ✧ グループでいろいろな情報交換ができた。手話通訳なしで話し合ったことがよかった。理解してもらえるきっかけができた。(聴覚障害者)
- ✧ チェック表を元に話し合いができてよかった。市外の人とも交流できた。
- ✧ 職場の水害が心配。用水路などに囲まれていて、避難場所に困る。職場にはお年寄りや障害者がいるので
- ✧ 地域や家族の防災について有意義な話し合いができた。



✧ 非常持ち出し袋が助かりました。

4/4

✧ 避難に時間がかかり、早めに行動しないと思った。

✧ ジェスチャーや筆談などのコミュニケーションも頭の中で分かっている以上に難しく、普段からの慣れや場数が必要だと感じた。防災倉庫の鍵を誰がどうやって開けるのか？三角バケツとは？など自分の知らないことに気づけて良かった。

✧ 地域の課題が見つかった。行動に移す意欲が出た。

✧ 聴覚障害の人とコミュニケーションをとるためにはメモ用紙がたくさんいることが分かった。

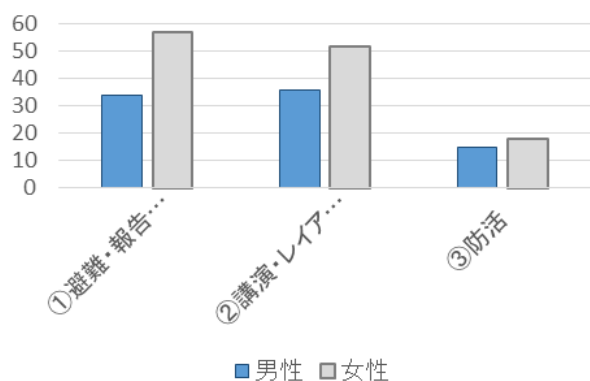
✧ くらと言われて、東海地区には来ない地震に対し油断気味かなと思った。備蓄品が賞味期限切れなので反省。

✧ ガスや電気のない時を考えてないと気付いた。

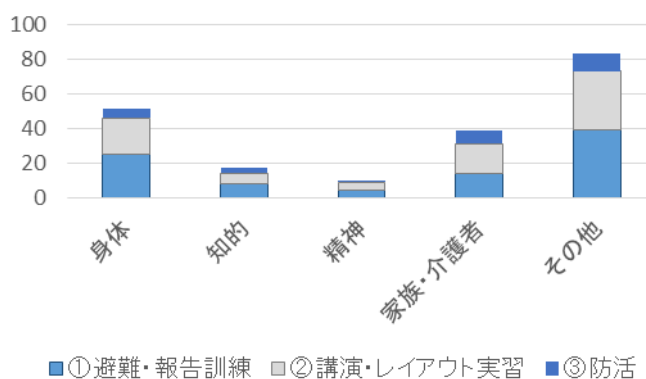
✧ 自分の命は自分で守る。自助が一番。



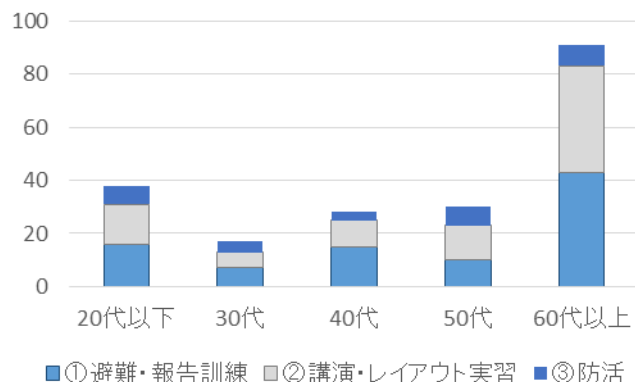
回収アンケートより



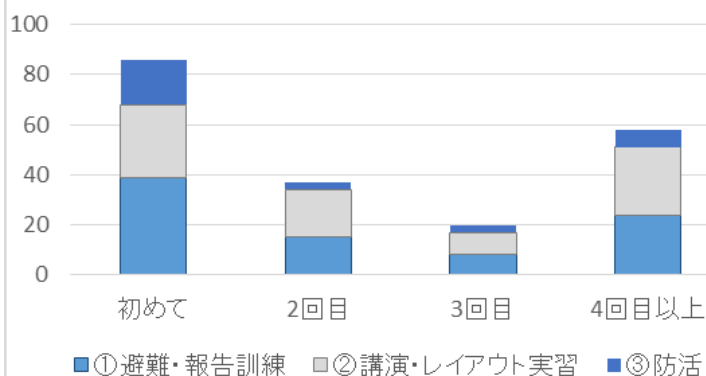
回収アンケートより



回収アンケートより 年代



回収アンケートより 参加回数



■考 察■

◆第1部 避難・報告訓練◆ 参加者126人

第1部は、市の災害ボランティアコーディネーターレベルアップ講座と連携して開催した。

開会式後、社協の5つの福祉センターをもとに地域別のグループに分けて、順番に出発した。歩行が困難な人にはグループの中の一般参加者にその場でサポートをお願いした。健康な人にはどうということのない桜ヶ丘公園を横切るだけの移動だが、車いすや高齢者の人はやはり時間がかかる。

あいトピア3階エレベーター前の受付で「ニーズ受付」「ボランティア受付」に分かれる。まず「ニーズ受付」という言葉が分からない人が多かった。社会活動をしている人にはすぐわかるが、高齢者や一般の人には「手伝いを頼みたい人」などの標記の工夫が必要。ニーズの聞き取りは、人によって時間配分にかなりばらつきがあった。聴覚障害者は筆談だと時間がかかる。絵カードも使い慣れれば便利だが、はじめての人は効果的な使い方がよく分からず戸惑っている様子も見られた。障害別マークが工夫されていたのはよかった。

ボランティア受付は、第1の説明場所が入口付近だったため、後の人が入りにくくなって渋滞していた。聴覚障害者がボランティアに行った時、手話通訳がいない状態なのは初めての体験だが、出来る範囲で身ぶりを交えて説明していた。

他団体の講座との連携は職員で打合せを行った。日頃の段取りや活動の違いで戸惑うことも多かったが、有事に向けて主催者も参加者も有意義な体験が出来た。



◆第2部 講演&避難所開設レイアウト実習◆ 参加者119人

水谷氏の講演では、インクルーシブ防災、つまり福祉避難所として自宅から遠く離れた所に行くことを想定するのではなく、自宅や地域避難所の福祉スペースの充実などを提案していく大切さ「弱者からの発信」の重要性をキーワードとして述べられた。当事者発信の重要性はさくらピア避難所体験が常に掲げているとおりだと共感した。

体育館での設営訓練は、好評だった。ダンボールベッドは、毎年組み立てたり展示したり宿泊に使っているが、はじめて見る人も多くいて質問も受けた。1人分が1m×2mで区画分けをし、通路も車いすで通れる設定で100人分の場所を作ったが、荷物等が入ることも考えると体育館の受け入れ人数を見直さなければならぬだろう。

避難訓練は、今回は体育館からの避難だったので移動が早かった。地震のゆれが収まるまで頭を守って待っている人もいて、何度かの訓練の積み重ねの成果が垣間見えた。簡単そうに見えることでも、知っていることとできることは違う、と昨年の訓練時の言葉を思い出した。



◆第3部 防活ミーティング・まとめ◆

参加者 41 人

地域ごとのグループで、防災度チェック表を元に話を進めた。

内閣府が2007年「ぼうさいカフェ」という事業に取り組んでいたが、事業実施機関が終わると全国に普及しないまま立ち消えになった。その後、2011年に東日本大震災が起き、防災、減災に向けて社会活動、教育活動が盛んに展開されている。しかし、縦割り行政や生活環境の多様化からか、似たような行事が団体別に開かれて地域での交流が希薄な例が多い。障害に特化した問題を掘り下げる事も大事だが、公共施設であるさくらピアの役割は、集まる人の手を心をつなぐきっかけ作りであると考えて、今回のテーマ「伝えて地域でつながって」を掲げた。



◆次回の開催に向けて◆

はじめての日帰り企画で、3つの企画をしたのでバタバタしてしまった。

来年は午前1 午後1 の2つの企画で進めたい。

グループを社協のセンターごとに5つに分けたのは良かった。

地域にある協定施設についてゆっくり情報交換する時間もほしい。

他団体との連携はお互いのために良かったので、今回の反省を次回に生かしたい。

少しずつ参加者の防災意識が上がっているのが回を重ねて実感できる。

防災タイムを9月の2週間毎日実施して500人以上の参加者があった。日常活動の延長線上に負担にならない形で防災活動を取り入れていくこと、地域の中に障害者の存在を発信していくことを豊障連の責務として避難所体験を続けていきたい。マンガ「障害者が避難所にきたら」やこの避難所体験報告集をたくさんの方に読んでいただき、障害者防災の「伝えて地域でつながって」がさらに広がることを願ってやまない

さくらピア 防災タイム 2017 を実施

2017 年 9 月 9 日（土）～24 日（日）

AM11 時 45 分・PM3 時・PM8 時の 1 日 3 回

訓練放送後各グループごとに避難経路の確認をしていただきました

実施アンケートより

参加グループ 57

歩ける人

公園まで避難した

障害者 168 名

その他 232 名

各階の避難所へ避難した

障害者 47 名

その他 58 名

階段が
使えない人

合計 505 名（障害者 215 名・その他 290 名）



非常扉は、身体障害者や力の弱い女性には重くて開けづらかった。
（防火目的のドアは重いのです）

グループで避難したが、大勢集まると自分のグループの確認が難しかった。



車いすなので、ガラスが割れていたらパンクしてしまうな。

視覚障害者にとって、階段での避難は大変だった。



各階の避難所で助けを待っていて救助が来ても、うまく移れるのか心配。大切な車いすも一緒に救助されないと困るな。

階段には手すりが両側にあるほうがいいと思った。



非常階段で避難したけれど、停電したら真っ暗で降りられるだろうか。

ロビーに、パトライトがない。
（各部屋にはモニターとパトライトがあり、視覚情報で非常を伝えられる）

2017 さくらピア

夏休み親子防災教室

2017.07.22(SAT)

1時間目「防災頭巾を作ろう」

講師:尾崎公枝さん(豊橋防災VCの会)



100円均一の座布団2枚を縫い合せます。



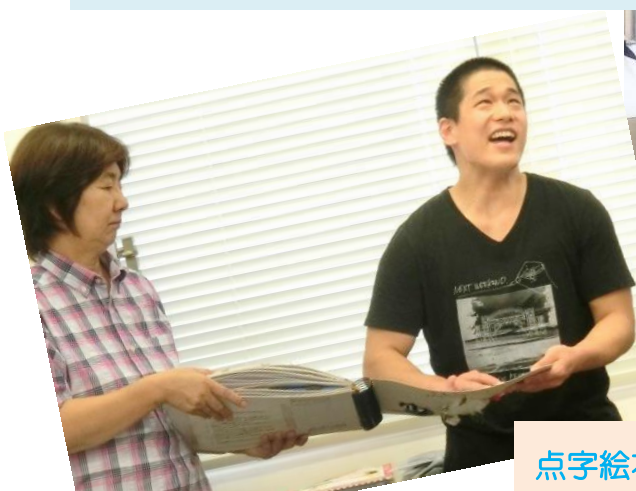
簡単!!

できあがり!!

2時間目「見えないってどんなこと？」

講師:鈴木結策さん(岡崎盲学校保健理療科)

視覚障害者ガイドヘルプかるがものみなさん



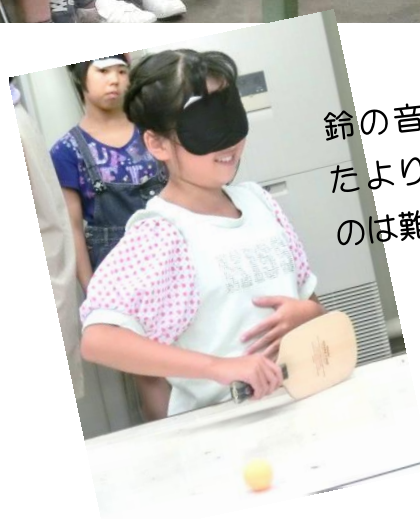
点字絵本の読み聞かせ



結策さんの語りにうっとり～



STT(サウンドテーブルテニス)体験



鈴の音だけを
たよりに打つ
のは難しい!

視覚障害者ガイドヘルプ体験



階段を上ります!!



私の肩につかまって



部屋から廊下に出ます

豊障連に防災教育最優秀賞

グッズ作製など独自の活動評価

チャレンジプラン

豊橋障害者(児)団体連合協議会(豊障連)がこの1年で取り組んできた防災活動が、「防災教育チャレンジプラン」(同プラン実行委・内閣府主催)の最優秀賞である防災教育大賞に輝いた。(田中博子)

同プランは全国で取り組まれている防災教育の場の拡大や質向上を目的に新しい取り組みを支援するもの。防災教育への意欲を持つ団体や学校、個人等から募ったプランの中から「防災教育チャレンジプラン」を選出。実践への支援を行う。1年間の実践後に活動報告し、優秀な取り組みに賞を贈る。今年度は豊障連を含め全国から小中学校

策にあたることを念頭にプランを策定。福祉避難所の同館で障害当事者や家族、行政・福祉関係者、近隣住民らが避難生活を検証する「避難所体験」に加え、同館利用者の自主活動時間を使った「防災タイム」(43団体68人参加)、親子で防災ずきん製作や防災手話を学ぶ「夏休み親子防災教室」、障害児余暇支援事業「さくらピアサマースクール」で防災を絡めたゲームを行うなどの取り組みを実施してきた。今月18日に東京大学地震研究所で開いた実践報

告会では、本田栄子・同館事務局長と荒木登喜子・豊障連理事長が出席し、映像を交えながら活動を紹介。防災グッズ作製など独自の取り組みを多く行っている点や、障害者に対する防災教育の工夫した企画立案・実践などが高く評価され、今回の大賞につながったという。

「評価される活動ができてうれしい。1つ1つの企画を多くの人が快く参加協力してくれたおかげ」と本田事務局長。これらの活動は今後も継続を予定している。今回の取り組みは同プランのHPに掲載予定で、今後は全国の防災教育活動中の団体を支援・助言する「サポーター」の役目も担う。

「『障害者の防災』が『皆の防災』に。賞を機に取り組みが全体的に広がれば」と本田事務局長は期待を寄せる。



表彰状を掲げる本田事務局長(左)と荒木理事長(右)

豊橋の防災活動「教育大賞」受賞

豊橋障害者（児）団体連絡協議会の防災活動への取り組みが、今年度の「防災教育チャレンジプラン」（内閣府などで行う実行委員会主催）で最優秀賞の「防災教育大賞」に選ばれた。障害者に対する防災教育を多くの市民に理解してもらうため、障害者や地域住民と一緒に参加する避難所体験などが高く評価された。

協議会は、災害時に障害者や高齢者を受け入れる福祉避難所となる、市障害者福祉会館「さくらピア」（豊橋市東新町）で毎年、障害者や地域住民らを対象にした避難所体験を開いている。

体育館での宿泊や夜の避難訓練、講演会などを通して障害者自身の防災意識を向上。一方、地域住民が避難所で



独自の取り組みが評価されて防災教育チャレンジプランで「防災教育大賞」を受賞した＝豊橋市東新町

障害者と地域住民と一緒に宿泊・訓練 活動に評価

災害弱者と呼ばれる人たちの共生生活を送るために必要な配慮を学ぶ機会になっている。

協議会は「いつもの場所で身近な防災」と題したプランを提案。会館利用者の自主活動時間を使って15分間の「防災タイム」を実施した。協議会がつくった防災ラジオドラマを聞き、避難経路の確認をした。

4カ月間で43団体688人が参加。しかし、1人で近くの公園まで逃げられない人が109人いたため、今後は具体的な対策を検討することになっている。

身近な材料を使った防災ずきんの製作や災害時に必要な防災手話を学ぶ「夏休み親子防災教室」の開催、障害児を対象にした防災ゲームなども実践した。

プランづくりに参加したさくらピア職員の清水里依子さんは「防災活動を特別扱いせず、日常生活の延長線上としてとらえ、参加者が地域全体に広がってほしい」と話す。

さくらピアでは11日午前10時から、「みんなで防災ミーティング」を開く。防災教育チャレンジプランの報告や防災講話、屋外消火栓と消火器訓練を実施する。参加無料。定員50人。申し込みは、さくらピア（0532・533153）へ。（松永佳伸）

防災大賞に さくらピア

豊橋市東新町の市障害者福祉会館（さくらピア）が二月、内閣府などが主催する「防災教育チャレンジプラン」で最優秀賞の防災大賞を受賞した。会館を利用する団体に防災訓練を行ってもらう取り組みや、障害者の避難所体験などが評価された。

さくらピアは、車いす利用者や聴覚障害者などが、サークル活動の場として使用している。昨年は実際の活動

時間中に「防災タイム」と題して避難訓練を行い、計六百八十八人が参加。主に障害者



表彰状を手にする本田さんら＝豊橋市東新町で

が施設に寝泊まりする「避難所体験」や、親子で手話や防災グッズを学ぶ教室も開いた。本田栄子事務局長は「防災タイムは予算が要らず、どこでもまね

できる。市全体に広がってほしい」と話した。防災教育チャレンジプランには、全国の学校など十五団体が参加。この一年で取り組んだ防災活動の成果から優秀賞、特別賞各二団体も選ばれた。

十一日午前10時から、これまでの取り組みを詳しく発表する「防災ミーティング」をさくらピアで開く。要申し込み。①さくらピア②0532（533153）

さくらピアが防災教育大賞を受賞

工夫凝らした取り組み評価

豊橋市障害者福祉会館さくらピア（東新町）が、全国の団体が防災を推進する取り組み「防災教育チャレンジプラン」で、最高賞となる「防災教育大賞」を受賞した。本田栄子事務長は「スタッフや参加者の努力があつての受賞。取り組みを多くの人に知ってもらいたい」と話す。

は内閣府などが主催し、全国の各団体に防災教育プランを公募。さくらピアは、工夫を凝らした独自の取り組みや企画を実践した点などが評価を受け、最高賞に



最高賞を受けた、さくらピアの職員（豊橋市障害者福祉会館さくらピアで）

輝いた。会館は、障害者など宿泊して防災意識を高める「避難所

体験」や、利用団体が訓練に励む「防災タイム」などを企画して実施。参加者だけでなく、実践した活動を地域や市民に広める取り組みを続けている。

本田事務長は「障

害者の防災は、市民の防災へとつながる。障害を身近に感じる人たちが増えてほしい」と期待を寄せる。

11日には「3・11を忘れない集い・みんなで防災ミーティング」を開く。本田事務長が、チャレンジプランの受賞報告を実施。地震の発生を想定した、避難訓練なども行う。午前10時～正午。当日参加可。（佐々木雄紫）

平成 29 年 3 月 11 日(土)

東日新聞

避難所の障害者を支えて

豊障連の
防災マンガ
豊橋の全中学校へ寄贈



山西教育長に目録を手渡す
草場副会長と本田さん（左
から）＝豊橋市役所で

授業で使って。豊橋市障害者（児）団体連合協議会（豊障連、山下徹会長）は6日、市内の中学校に同会が作成した「防災ラジオドラマ マンガ編」障害者が避難所に来たらら（880冊（22校×40冊、8万8000円相当）を寄贈した。

同書は、豊障連が指定管理者を務める市障害者福祉会館「さくらピア」で3年前に行った「避難所体験」で、障害当事者やボランティア、行政関係者、近隣住民ら参加者が制作した防災ラジオドラマのシナリオをマンガに描き起こしたもの。

贈呈は市役所教育長室で行い、豊障連の草場昭彦副会長と本田栄子・さくらピア事務長が出席。「災害の中でどう避難し、障害者にはどんな対応をしたらいいのか」など、この本で中学生に防災意識を持ってもらえれば」と、山西正泰教育長に目録を手渡した。

シナリオは、豊橋で震度6の地震が起きてライフラインが止まった想定で、避難所に各種障害のある人を含む地域住民が集まる場面を通して、起こり得る問題点や心の持ちようを描いたもの。防災科学技術研究所主催「第5回防災ラジオドラマコンテスト」脚本部門で最優秀賞に輝き、同シナリオのCDは翌年の同コンテストで特別賞「作品活用賞」も受賞した。

音声が一過性かつ、聴覚障害の話が扱えなかったことなどから、マンガ化を企画。出版後の反響は大きく、県外からの問い合わせも相次ぎ、作成した3000部が終了した。マンガはA4判、31ページ。順次、市内中学校に配られるほか、桜丘中学校にも寄贈される予定。同マンガの問い合わせはさくらピア（0532・53・3153）へ。

平成29年6月7日（水）中日新聞

障害者の防災 読んで理解

豊橋の団体 中学校に漫画寄贈

豊橋市の豊橋障害者（児）団体連合協議会は六日、防災ラジオドラマのマンガ編「障害者が避難所に来たら」八百八十冊を、市立中学校二十二

校と私立桜丘中学校へ寄附した。冊子は、同協議会が毎年九月に開催しているワークショップ「さくらピア避難所体験」の参加者

らの実体験に基づき制作したシナリオを漫画化した。避難所に障害者が来た際の接し方や、子どもたちができることは何かなどが描かれている。昨年完成した一刷目が配布終了したため、増刷した。市役所で冊子を受け取った山西正泰教育長は「登場人物が人間的に描かれていて、子どもが読んでも納得がいく」と太鼓判を押した。

同協議会の草場昭彦副会長（モミ）は「災害の中で障害者の人たちがどんな助けを望んでいるか知ってほしい」と呼び掛けた。

市障害者福祉会館さくらピアの本田栄子事務長（モミ）は「障害者とひとくちに言っても、個々に差がある。こういった認識を地域に発信していくことが大切」と漫画による認知の広がり期待を寄せた。（小河奈緒子）



冊子を贈った草場さん（左）、本田さん（中）と山西教育長＝豊橋市役所で

障害者理解と防災学ぶ

豊橋の
さくらピア 夏休み子どもと一緒に教室

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で22日、「2017さくらぴあ夏休み親子防災教室」が開かれた。小中学生とその保護者が防災について知識を深めた。

夏休みを利用し、親子で地域の障害者理解を深め、防災について考える機会にしておらおうと、昨年に引き続いて企画。小学1年から中学2年までの子どもとその保護者18組が参加した。

この日は、前半が豊橋防災ボランティアコーディネーターの会の尾崎公枝さんを講師に、座布団を使った「防災頭巾」の制作、後半は岡崎盲学校高等部保健療科の鈴木結策さんや地元の視覚障害者ガイドヘルプ「かるがも」を講師に、視覚障害について勉強した。

防災頭巾は、座布団2枚を縫い合わせて作るもので親子は協力しながら制作。視覚障害の勉強で

は参加者が2班に分かれ、鈴木さんによる障害当事者の話や視覚障害者卓球「サウンドテニス」卓球「サウンドテニス」(STT)の体験、かるがも会員の指導による2人1組になった視覚障害者のガイドヘルプの方法を学んだ。参加親子は目隠しでの歩行で視覚障害を身を持って体感、「手すりがないと心配」「階段がこわい」などと口々に感想を語っていた。

(田中博子)



防災頭巾を作る参加者―さくらピアで

避難所設営の区画割り学ば

豊橋・さくらピア 障害者ら「一日体験」



豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で30日、毎年恒例の「避難所体験」が開かれた。「伝えて地域で つながって」をテーマに、講演や避難訓練、避難所設営訓練などを通して参加者が防災意識を高めた。

同館指定管理者である「豊橋障害者(児)団体連合協議会」(豊障連)主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援。福祉避難所である同館で障害当事者や家族、県内外の行政・福祉関係者、近隣住民らが避難生活を検証する試みで、障害当事

者を主体とした継続的な防災啓発事業の取り組みは国内でも高く評価されている。これまで宿泊体験を続けてきたが、9回目となる今年は一日体験を開催した。

この日は約110人が参加。避難・報告訓練のほか、珍しい試みとして避難所開設レイアウト実習を実施した。AJU自立の家の水谷真所長から「避難所の課題」と題して個々に合った避難支援を行う「インクルーシブ防災」についての講演を聞いた後、同館体育館に移動し、5グループに分かれて水谷所長の指導を受けながら体育館の床を測り、テープを貼って会場を区画分けしたり、段ボールベッド作りなどに

取り組んだ。

「自分の事を頑張って周囲に伝えることや地域との繋がりも重要。体験したことをそれぞれが家庭や地域に持ち帰ってほしい」と山下徹・豊障連会長。ほかにも屋外への避難訓練や初期消火訓練も実施した。

(田中博子)

平成29年10月1日(日)

東愛知新聞

豊橋障害者(児)団体連合協議会

理事会【月1回】

評議員会【年1回】

理 事 2名／各団体
評議員 2名／各団体

- ・ 豊橋市聴覚障害者協会
- ・ 豊橋市身体障害者(児)福祉団体連合会
- ・ 豊橋身体障害者協会
- ・ 豊橋精神障害者地域家族会
- ・ 豊橋市肢体不自由児(者)父母の会
- ・ 豊橋市手をつなぐ育成会

【自主事業】

- ・ 豊障連大会 (6月)
- ・ 納涼夏祭り (8月)
- ・ サマースクール (8月)
- ・ 避難所体験 (9月)
- ・ 体育祭 (10月)
- ・ 文化祭 (11月)

【委託事業】

- ・ 豊橋市障害者福祉会館さくらピア指定管理事業
- ・ とよはし総合相談支援センター運営事業(就労支援事業)
- ・ 喫茶路面電車事業
- ・ プラスチックリサイクル事業
- ・ 機能訓練事業

豊橋市障害者福祉会館

さくらピア 避難所体験のあゆみ

①

②

		1日目 午後		1日目 夜		配布物
1	2009年	平成21年	「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない」 東海豪雨被災体験 地震体験車 防災設備確認ラリー 避難訓練	平野千尋氏	プライベート間仕切り組み立て実演 防災グッズ紹介 「豊橋市の避難所状況」 障害者の防災を考える	防災VC 福祉保健課長
2	2010年	平成22年	「阪神・淡路大震災、その時知的障害者は…」 地震体験車 避難訓練	霧島明美氏	防災グッズ紹介 障害者の防災を考える 防災紙芝居「おそろしい台風」	防災VC
3	2011年	平成23年	応急手当講習「三角巾の使い方」 避難訓練 はしご車	清水勝之氏 創造大学	南三陸町視察報告 障害者の防災を考える	本田栄子 防災カード
4	2012年	平成24年	「災害救助最前線」 大災害 その時役立つ知恵袋 防災なるほどクイズ カレー炊きだし体験	自衛隊 防災VC	防災講話 夜の避難訓練	中消防署 ハートリュック
5	2013年	平成25年	「逃げ遅れる人々」 映画上映 パッククッキング 煙体験ハウス・地震体験車 防災グッズいろいろ	防災VC	ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋 夜の避難訓練 ★第18回防災まちづくり大賞 総務大臣賞受賞	体験しよう備えよう 避難所体験の取組

6	2014年	平成26年	「地域防災と障害者」 消防団 車いすダンスSHOW&逃げましょう 展示コーナー 煙体験ハウス	松下直弘氏 防災VC	防災ラジオドラマ	★26年度防災功労賞	
					26年度 ★防災ラジオドラマコンテスト 最優秀賞		
7	2015年	平成27年	防災ラジオドラマに書ききれなかった思い 防災手話体験 避難訓練		防災レクリエーション他	わたぼうし 花菖蒲 防災VC	タオル
					27年度 ★防災ラジオドラマコンテスト 作品活用賞	★防災教育チャレンジプラン 実践団体	
8	2016年	平成28年	講演 あのときのこと 避難訓練	森 正義氏	講演 これからのこと あそ防災 じゃんけん・釣りゲーム	堀 清和氏	マンガ 『障害者が避難所に 来たら』
					★防災教育チャレンジプラン 防災教育大賞		
9	2017年	平成29年	①伝えて～避難・報告訓練 さくらピアからあいトピアへ	②地域で～ 避難所の分けをテープで体験 講師：水谷 真氏 (AJU自立の家所長)	③つながって 地域ごとで話し合い		非常持出袋 軍手・ロープ パン缶・水

避難所体験報告書 は

さくらピアホームページからも

ご覧いただけます。(カラー版)

URL

<http://hosyoren.jp/sakurapia/>



さくらピア (豊橋市障害者福祉会館)



〒440-0812 豊橋市東新町15番地

TEL : (0532) 53-3153 FAX : (0532) 53-3200

E-mail : sakurapia@hosyoren.jp HP : <http://hosyoren.jp/sakurapia/>

開館 : 午前9時～午後9時 休館 : 月曜日、祝日 (月曜日が祝日の場合は翌日)